

Note: The English version is after the Japanese version in this document.

Osaka International Church

ダニエル・エルリック牧師

日付:2009年12月6日

アドベントとクリスマスシリーズ聖書箇所:ヨハネ 16:20-24

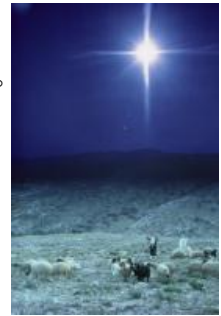
鍵聖句:ルカ 2:10-11

Title: 完成した喜び

特別なイベント:アドベントキャンドル #2,喜び

1. 序論

おはようございます! フィリピ 4:4 で、使徒パウロはこのように書いています。「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。」パウロは、この言葉を書き記したとき、特にクリスマスについてそのように言ったわけではありません。しかし、実にクリスマスは、イエスの福音を喜ぶ素晴らしい時です。パウロは、フィリピの教会、また私たちに喜ぶように命じました。これは、たくさんの人たちが見逃してしまいがちなことを言っています。何を言っているのかというと、喜ぶことは私たちが選択することである、ということです。喜ぶことを選択するのは、いつも簡単にできるわけではありません。しかし、私たちがどんな問題に直面しているかにかかわらず、わたしたちは、喜ぶことを選ぶことができるのです。



フィリピの人たちは、パウロが命じたことには、ただ喜びなさいということよりもっと深い意味を含んでいたと容易に信じるのができただろうと思います。なぜなら、彼らは、喜びがどういうものかを示したパウロの姿を見ていたからです。パウロとシラスは、悪霊に取り付かれた若い女の子を自由にした後、自分たちの町で牢屋におちこまれました。誰かを助けたのに、牢屋に入れられるなんて、私たちがだったらどうするでしょうか。鎖につながれながら、喜ぶことを選びますか。使徒 16:25 では、パウロとシラスの選択について明らかにしています。「真夜中ごろ、パウロとシラスが賛美の歌をうたって神に祈っていると、ほかの囚人たちはこれに聞き入っていた。」すなわち、牢屋の中でさえ、彼らは喜んでいたのでした! 彼らの喜びが、その牢屋全体をとて祝福された場所へと変えてしまったので、地震が起って牢屋のドアが開いたにもかかわらず、誰一人逃げ出さなかったほどでした。そしてその結果、ある囚人とその家族が救われました。きっと、他にもたくさんの囚人が救われたことでしょう。

私たちが、深刻な問題に直面したからといって、私たちが文句をいったり落ち込んだりしなければならないということではありません。難しい状況であっても、楽しんだり喜んだりすることを選ぶこともできるのです。ある漫画家がパウロとシラスをこのように描いています。シラスは聞きました。「なあ、パウロ、何かいい歌はないかな?」パウロは答えました。「『私は主に向かって手を挙げる』はどうか。」このユーモアを含んだ場面は、困難なときの大きな助けとなるかもしれません。パウロとシラスは、牢屋の中でさえも、喜ぶことを選ぶ取ったのです。



聖書は、一貫して、喜ぶことは選択するものと言っています。ネヘミヤ書 8 章では、祭司であるエズラが、人々にモーセの律法を読みました。しかし、人々は嘆き始めました。エズラたちは、このように言ったのです。(ネヘミヤ 8:10) 「彼らは更に言った。「行って良い肉を食べ、甘い飲み物を飲みなさい。その備えのない者には、それを分け与えてやりなさい。今日は、我らの主にささげられた聖なる日だ。悲しんではならない。主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」」私たちが嘆き悲しむよりも喜ぶことを選べるのです。そして、私たちが主の喜びの中に生きることを選択するなら、その時、私たちが信仰において強くなり、人生の問題に打ち勝つ準備ができるのです。

聖書に出てくる信仰の勇者たちの多くは、状況にかかわらず主にあって喜ぶことを選びました。ハバクク書 3:17-18 に、「いちじくの木に花は咲かず／おどろの枝は実をつけず／オリーブは収穫の期待を裏切り／田畑は食物を生ぜず／羊はおりから断たれ／牛舎には牛がいなくなる。しかし、わたしは主によって喜び／わが救いの神のゆえに踊る。」とあります。主にあって喜ぶことを選ぶことは、状況に左右されるわけではないのです、私たちの心に左右されるのです。

もし私たちが主を愛するなら、私たちがどんな問題に直面しているかが、それにかかわらず、主にあって喜ぶことができるのです。その試練や問題が、主に近づくための私たちへの助けであることを知っているのが、喜びとなるのです。ヤコブはこのように手紙に書いています (ヤコブ 1:2-3) 「わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。信仰が試されることで忍耐が生じると、あなたがたは知っています。」

私たちは、喜びを選ぶことはできますが、いつも容易なこととは限りません。喜びを選ぶことを学ぶための助けが必要なのです。しかし、聖書は、喜びを選び取る方法についての揺ぎ無い教えであふれているのです。神に感謝します。それでは、ヨハネ 16:20-24 を読みましょう。

2. Scripture John 16:20-24 (NIV)

20 はっきり言うておく。あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。21 女は子供を産むとき、苦しむものだ。自分の時が来たからである。しかし、子供が生まれると、一人の人間が世に生まれ出た喜びのために、もはやその苦痛を思い出さない。22 ところで、今はあなたがたも、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜ぶことになる。その喜びをあなたがたから奪い去る者はいない。23 その日には、あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねない。はっきり言うておく。あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。24 今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。」

3. 教え

イエスは、使徒たちにこのようにいいました（ヨハネ 16:20）。「はっきり言うておく。あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。」ここで、イエスは特にご自身の死と復活について話していたのだと、私は思いますが、しかし、この言葉は、私たちが直面するたくさんの状況にも適用できます。もし、私たちの問題が一時的なものだと覚えているなら、日常生活において喜ぶことを選ぶのはもっと容易になります。主と共にいるなら、一番困難な問題でさえ、素晴らしい解決が与えられるのです。



皆さんの日常生活において、苦しみや困難に直面していますか。主は、しばしば、この苦しみや困難を使って、私たちに新しいいのちと回復をもたらしてください。イエスは、ご自身が十字架につけられるときの弟子たちの苦しみを、産みの苦しみに例えています。そして、その後、主は、復活の喜びを、子どもが生まれるときの新しい命喜びに例えています。ヨハネ 16:21-22「女は子供を産むとき、苦しむものだ。自分の時が来たからである。しかし、子供が生まれると、一人の人間が世に生まれ出た喜びのために、もはやその苦痛を思い出さない。ところで、今はあなたがたも、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜ぶことになる。その喜びをあなたがたから奪い去る者はいない。」

よみがえられたキリストは、誰にも奪うことのできない、絶えることない喜びをもたらされました。もし、私たちがイエスとの交わりの中に生きるなら、主の臨在のもとに喜びがあふれるのです。母親が子どもを腕に抱くとき、新しい命の訪れに深い喜びを感じます。使徒たちは、死からよみがえられたイエスの臨在にこの喜びを感じました。しかし、よく考えると、主の復活の後、再び使徒たちに会ったときのイエスの喜びの方が、もっとこの喜びに似通っているのではないかと思うのです。イエスの十字架上の死は、この世の罪を贖いました。死からよみがえられたとき、イエスは、ご自身が、新しい命と永遠の命を、ご自身を信じる全ての人に与えたことを知っておられたのです。



私たちがイエスに出会うとき、私たちは大きな喜びを感じます。しかし、私たちの喜びとは、母の腕に抱かれ安心する赤ん坊の喜びのようです。イエスは、その産みの喜び、すなわち新しい命をもたらす喜びを経験されたのです。その産みの苦しみの、永遠の命を私たちに与えた十字架での主の苦しみののです。神が、ご自身の子どもに対しどれほどの喜びを持っておられるかわかりますか？ 神の喜びを思うとき、私たちの喜びの選択は、もっとより簡単になるのです。



子どもが喜んでいるとき、その両親も笑顔になります。私たちが喜ぶとき、神もご自身の子どもに対し喜びを感じ、また、私たちの主イエスも共に喜んでくださるのです。主は、ご自身の全ての子どもを深く愛しているのです。そして、一人一人全ての息子、娘に喜びを感じるので

す。

実際、主はいつも主の民のことを喜んでいます。ゼファニア書3:17にこのように書いてあるのを知っていますか。「お前の主なる神はお前のただ中におられ／勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び楽しみ／愛によってお前を新たにし／お前のゆえに喜びの歌をもって楽しめる。」皆さんは 神の顔をどのように想像しますか？ 私たちは本当によく 神を機嫌の悪い老人のように考えてしまいます。しかし、ここでは、違うイメージで見ることができます。ここでは、主なる神は、主の民のゆえに喜びの歌をもって楽しんでおられるのです！

私たちが主に近づくとき、主は私たちを喜んでくださいます。では、どのようにして私たちは主の許に近づくのでしょうか。一番良い方法のひとつは、祈りです。イエスは、使徒たちに、主の名によって祈ることを強く命じました。ヨハネ 16:24で主はこのように言っています「今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。」私たちが祈りにおいて主と交わりを持つことにより、主の心に喜びをもたらす事柄のためにいることを学ぶのです。そして、主は、子どもたちに良いものを与えることに喜びを感じられるのです。

いくつかのことが、新しい命の喜びのような大きな喜びをもたらします。自分の子どもを腕に抱く母親は喜びます。よみがえられた主に会った弟子たちも喜びました。そして、迷い出た罪びとが主の許に来て、赦しと永遠の命を受け取るとき、いつでも主は喜ばれます。ルカ 15章には、このことについての例え話をいくつかされました。それぞれの例え話では、毎日の情景を使って、神がご自身の民に対して抱いておられる喜びを表しています。

それでは、ルカ 15:4-7にある迷い出た羊の例え話を見てみましょう。「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで 捜し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」

この例え話は、羊飼いが、迷子になった羊を探すというものです。羊飼いが、その羊を見つけたとき、大喜びし、友だちや近所の人々を呼んでお祝いしました。そして、最後まで読むと、この例え話が、迷子の羊を探す良き羊飼いが主であることを、教えてくれているのがわかります。そして、その迷子の羊が悔い改め群れに戻ってくるとき、天では大喜びしているということもわかります。皆さんは、この意味を考えられたことがありますか？ これは、誰かがクリスチャンになったとき、神は天でパーティを開いているということなのです！ 天使たちや旧約聖書の信仰の勇者たち、使徒たちがみんな、踊って歌っているのを、想像できますか？

同じようなことが、失われたコインの例え話や、放蕩息子の例え話など、この同じ章にある全ての話しに見ることができます。悲しいことに、ある人たちはこのパーティに参加しません。その放蕩息子が家へ帰ってきたとき、父親は喜んで言いました（ルカ 15:23）。「それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。」その父親は、大きなパーティを開いたのです。しかし、ただ一人、そのパーティを嫌がる人がいました（ルカ 15:28a）。「兄は怒って家に入ろうとはせず、」



アメリカのモンタナ州にあるメシアルーテル教会では、この場面をこのように演じています。そのパーティが始まって、兄が牧草地から戻ってきて、音楽や踊っているのをこっそり聞いているというものです。しかし、彼はその中に入ろうとはしませんでした。なぜなら、みんなが弟に注目していたのでねたましく思ったからです。兄は選択できたのです。彼は、そのパーティへ行って参加することができました。彼は喜ぶことを選択することができたのです。しかし、それを拒みました。父親は、外へ行き彼をなだめなければならなかったのです。

主は、私たちに喜ぶことを選ぶよう望んでおられます。そして、喜びへの道は、イエス・キリストとの交わりの中に、また、他の人と主の愛を分かち合うこと中に見出すことができます。たった一人の人でも、罪を悔い改め、主に立ち返るとき、天では喜びがあふれているのです。そして、私たちの心も喜びであふれるのです。ヨハネ第一 1:3-4にはこのようにあります。「わたしたちが見、また聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたもわたしたちとの交わりを持つようになるためです。わたしたちの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです。わたしたちがこれらのことを書

くのは、わたしたちの喜びが満ちあふれるようになるためです。」

4. Conclusion

主の御座の前に祈り、主イエスの臨在の中で時を過ごすことを優先し、このクリスマスの時、喜びを選ぶでしょう！そして、よりたくさんの人たちが主に立ち返り、このクリスマスの時、救いの喜びを体験できるように祈りましょう！高慢になったり、ねたんだりして、そのお祝いを拒む人が一人もいませんように。人生の悲しみは捨て、イエスの喜びへと参りましょう。クリスマスは、喜びのときです。なぜなら、神の御子イエスによって私たちのために供えられた素晴らしい救いを覚えるときだからです。私たちは、苦勞の尽きない世界に生きています。しかし、イエスが来られるという宣言を覚えるとき、私たちは喜ぶことができます。ルカ 2:10-11「天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」それでは祈りましょう。

5. Closing Prayer